

「心の教育」を求めて

上高井教育会長 佐藤 昭二



第170号

発行所 上高井教育会
発行人 上高井教育会長
編集人 佐藤 昭二
編集委員 会報編集委員長
太田 秀雄
印刷所 須坂新聞社

わたしと小鳥とずっと

金子みすゞ

わたしは両手をひろげても
お空はちっともとべないが
とべる小鳥はわたしのよう
地面をはやく走れない

わたしがからだをゆすっても
きれいな音はでないけど
あの鳴るすずはわたしのよう
たくさんなうたは知らないよ
すずと、小鳥と、それから わたし
みんなちがって
みんないい

の手がかりを求めようと、研究協議会が開かれています。文部省も深刻化する「いじめ・不登校」の問題に対応して「心の教育」に本腰を入れて取り組むために、平成八年度予算の中にこれを位置づけたとの報道があり、今後の大いなる成果を期待するものであります。

明治以来の日本の教育は、先進国へ追いつけ追い越せ教育であり、必然的に「貧」にどう対処するかが課題とされてきたが、衣食足りすぎて、「富」になった今日、これにどう対処すべきかの教育は余り考えられていなかったのではないのでしょうか。

忍耐心・向上心・協調性・家族愛等は農業を中心とした第一次産業社会では、体験を通しての日常生活全般の中で自ら育っていたものであった。これからの高度情報化社会、少子化・国際化社会の波は更にその進度を速めるであろうと考えられます。

この時にこそ、学校教育においては、一人ひとりの人間が自らの立場を自覚し、生命・人権の尊重を基盤とした「心豊かで、たくましく生きる」人材を育てるための「心の教育」を充実しなければならぬと思います。

学校教育には、学力保証と成長保証の二面が必要であると言われています。私たちは教師としての立場から、もっと成長保証にも力を入れるべきだと考えます。

「物となって考え、物となつて行う」ことや「たった一言が人の心を傷つける、たった一言が人の心を暖める」ということが言葉だけでなく、子どもたちの行為として見えはじめた時が「心の教育」のスタート地点ではないかと思えます。

|| 教育会だより ||

- 4・1 選挙公示(役員選挙)
- 4・2 第1回代議員会 第2回選挙管理委員会
- 4・4 理事長選挙 第3回選挙管理委員会
- 4・9 第2回代議員会 第4回選挙管理委員会
- 4・10 副理事長・理事・信教常任委員・信教代議員選挙 第5回選挙管理委員会
- 4・16 第1回常任委員会
- 4・16 研究委員会及び同好会世話係
- 4・20 研究総委員会・同好会発足(於・須坂小学校)

講演会 中心講師 谷川彰英先生(筑波大学教授)
演題「参加型の授業の進め方」

- 4・22 教育会監査会
- 4・23 第1回研究委員会世話係・委員長会
- 4・30 第3回代議員会

新任者会員歓迎会(新任者会員10名)
第5回選挙管理委員会

- 5・1 監事選挙
- 5・7 第6回選挙管理委員会
- 5・8 第2回常任委員会
- 5・18 教育会定期総会・講演会(於須坂市公民館)

○平成7年度会務並びに決算・平成8年度事業計画並びに予算・会館第一期工事会計報告の承認
講演/講師 有田和正先生(愛知教育大学教授)

演題「楽しい授業をどうつくるか」
○会員意見発表 田所道子教諭(日野小)
「いずみ学級を担任させていただいて」
第110回 信濃教育会定期総集會(県松本文化会館)

- 6・2 本会から36名参加
- 6・4 第3回常任委員会
- 6・25 第4回代議員会
- 7・3 郡研究日(1)
- 7・23 上高井教育会報170号発行

つきたい学力を明確にし 学習過程の工夫を

西澤 享良

テーマ「子どもにとって、わかり、魅力のある授業のあり方」を設定し、実践的研究を続けて五年目になります。研究は「基礎的・基本的な内容」と「わかる、できる、魅力ある授業」の関係を究め、「子どもが見通しをもって意欲的に追究し、根拠をもって集団の中で考えを練り上げ、活動や自己を見返していきけるような授業づくり」「そのための具体的な指導・援助・評価が的確になされる授業」を目指して研究が進められてきた。各委員会では「テーマに沿

いながら、児童生徒の意欲関心の持続を重視し、個の気つきや考えを大切にしながら支援の工夫。教材研究を深め児童生徒の実態に合わせた柔軟な指導の工夫。児童生徒の表現を支える基礎的技術を明確にし、個に応じた指導の工夫。基礎的・基本的な内容の定着を図るための、評価のあり方やT T指導を含む学習形態の工夫。」など実践的成果を得てきている。

牛の目玉の解剖

中村 文成

- (2) 計画性
- (3) 授業技術
 - ・発問・指示、助言・板書
 - ・指名・机間巡視
- (4) 「構え」(教師の情熱)
 - これらは「授業」における基礎・基本であります。日々の授業を展開するにあたって着実に実行し、一人一人に確かな学力をつけてやりたいものです。

「生徒が『生き物ってうまくてきているんだなあ』と感じてくれるようなことをしたい。」まずそう思いました。そこで選んだのが目玉の解剖です。初めて解剖をしたとき、「ホントに横型どおりだ」と変な感心をしました。我々は本やビデオで本物を知ったような錯覚に陥ってしまっています。でもやはり本物は違うのです。水晶体を触ってみれば(まるでグミのような硬さです)、この厚さを変化させて

平成8年度 県外視察者

学校名	氏名	視察目的	視察方面	実施予定
栗ガ丘 小	小伊藤 信	道徳教育研修(道徳学会への参加)	埼玉県	6月下旬
栗ガ丘 小	波多藤 英幸	生活科や学級経営の指導法の研修(授業参観)	関東方面	未定
栗ガ丘 小	柄澤 俊彦	子ども達が意欲的に活動する授業の研修	関東方面	未定
高山 小	大野 技	へき地校の教育指導について(複式学級の指導)	新潟県妙高村	夏休み中
高山 小	中沢 敦子	オープンスペースの利用の研修視察	新潟市	8月
高山 小	田中 寛	新教科指導の実践の様子・小学校の英語指導の研修	東京方面	10月
須坂 小	五味 隆	算数の学習指導の研修(授業参観と研究会参加)	東京学芸大	6月中旬
森上 小	鈴木 昭久	音楽教育(歌唱指導・全校音楽等)の指導研修	関東方面	11月
豊洲 小	中嶋 清裕	特別活動の先進校の指導状況参観研修	関西方面	10~11月
井上 小	島田 一生	同和教育研究(高校の部落問題研究部の実践視察)	東京南葛飾高	6月2日
高甫 小	田中 尚子	毛筆書体(かな文字)指導の研修	福島県方面	9月
高甫 小	小宮山 努	理科指導の充実を目指した実技指導研究	信越中部方面	夏休み中
旭ヶ丘 小	藤澤 隆之	堀川小学校第67回教育研究実践発表会参観研修	富山県砺波小	5月下旬
仁礼 小	中嶋 恵子	音楽指導法(小学校の音楽と全校音楽指導)の研修	東京方面	12月
仁礼 小	中村 優美	生活科の指導と低学年の学級経営の研修	東京方面	12月
仁礼 小	西郷 悦子	高学年の教科指導と学級経営のあり方の研修	関東方面	6~7月
小布施 中	小山 修二	特別活動と学級経営との有機的関連の探究	関西方面	10月11日
常盤 中	竹田 肇	国語科の基礎・基本の定着の指導法の研修	関東方面	10月中旬
常盤 中	藤田 彰	英語科の基礎・基本の習得指導の研修	関東方面	10月中旬
相森 中	涌井 裕一	不登校問題に取り組む実践・研究校の研修視察	東京・山梨	8~9月
相森 中	加藤 好章	数学科における課題学習の指導法の研修	東京・北陸	8~9月
相森 中	宮下 正己	美術教育研究(日本美術教育学会参加・研修)	京都	8月
墨坂 中	島田 浩幸	生徒の主体性を大事にした国語指導の研修	関東方面	8月
墨坂 中	中村 文成	理科指導の実践の様子を視察研修	大阪	8月
東 中	荒井 智	生き方を問う社会科授業の研究	関東方面	10月

球そのものを出すのですが、肉屋さんから買ってきたときには筋肉や脂肪のみならず毛までついてくるのですから、それをカッターナイフや解剖バサミを使って一つずつ目玉を取り出していくのです。新鮮なものはまだしも、鮮度が落ちてくるものは悲惨です。なんだか解剖する指に肉がまとわりついてくるような感触でした。

研究授業当日、生徒達は隣近所のクラスから噂を聞いていたのか、目の解剖をするのを知っていたようです。それでも本物の目玉を見せたときの興味の示し方は格別でした。ブタの眼球の後ろに小さく窓を開け、そこを通してライトが逆さに映っている様子を見せます。レンズがあるはずだと推測し、いよいよウシの目の解剖です。

眼球の一番外側は強膜と呼ばれる非常に丈夫な膜です。どうやら目玉が新鮮すぎたよう、生徒達は切れ込みを入るまで、だいぶ苦労しました。なんとか切り開くと、中からドロドロしたゼリー状のもの(硝子体)が出てきます。目の中にはこんなものが入っていたのかと驚いたようです。ちょうど目玉焼きのように硝子体の真中にレンズがありま

す。三つの班を除き、きれいなレンズを取り出すことができました。

自分たちの班のレンズでは飽きたら、隣の班のものまで手を出すN君。肉も魚もダメなAさんも、最後には目玉をつついていたようです。T君は翌日の「あゆみ」に「：」レンズもちゃんとありました。ただ本で見ると、実際に自分たちの手でやってみると、何か得られるものが違うと感じました。」と書いてくれました。忙しい一時間で彼らの生の声を十分聞き取ってやれなかったことを非常に残念に思います。(墨坂中)

広く確かな根を

〜同好会発足に当たって〜

高野 重治

信教の重点研究の第一集の巻頭言で、当時の太田美明会長先生が「目に見えないところこそ、大切にしなければならぬ。教育はそこにある。」と述べておられる。

急変する現代教育界において、私は、とかく目の前に見えることのみを気にとられ、教師としての生き方の根本を育てることを怠っていないだろうかかと自省する毎日である。

私の勤める学校の校長室の前庭に大きなカエデや松の木などたくさん植えてある。その中に三年程前に、前校長先生が自らの手で学有林から移植された大きなカエデの木がある。

赴任した昨年の春から初夏にかけてその芽ぶきの美しさを、また、秋には紅葉を十分に堪能させていた。

このカエデの木は、昨年の秋の紅葉の時期が過ぎても、全部の葉が落ちずに、あちこちの葉が残っていた。葉が落ちないという事は、どうしているのじゃないかということ、初冬の頃、村の清掃工場から運んでもらった堆肥を根元に施した。でも、春の芽ぶきが心配であった。

枝からは、新芽がふいてこなかった。根だと直感した。大きな木が勢良く茂るには、それに比例して大きな根を張っている必要がある。根は、目に見えないので、草木が枯れたりした時、日照りをしてしまいがちである。

根は見えないので、目に見える所がおかしいと思ったり時には、普段は見えない根を調べてみるのが大事であるということを学んだ。言うまでもなく植物はしっかり根を張ってこそ、しっかりと花を咲かせ葉を茂らせ実を生らせることができる。

さて、今年は十五の同好会に延べ三百十七名の会員で発足した。

同好会活動は、植物に例えれば、己が生きていく上でのしつかりした「根を育てる活動」であるといつてよいだろう。そして、しつかりした根を育てるために、同じ目標に向かって研修する仲間と共に、良き師に学びながら、積極的に活動に参加して、研修を深め、自分の根を広く張ると共に、木々を支える確かな根にしていくように励みたいものである。

(高山中)

体育同好会の

活性化を願って

斎藤 誠吾

〇はじめに

教科の目指す方向は、一人一人の児童生徒に「運動に親しませる」と「健康の増進と体力の向上」を図り、生涯体育・スポーツに結びつけることである。そのためには一人一人が自分の力に合っためあてをもち、運動のもつ特性に触れる楽しさが体験できればならぬ。この視点で同好会の活動を行っている。

本校の宝⑭

自慢の体育館

小布施中学校

小布施の町は一年を通して、観光客の姿が絶えることがない。遠来の訪問者の目を引くのが本校体育館、別名「鳳凰アリーナ」である。斬新奇抜な外観に「なんだろう。あの建物」と興味をそそられ、カメラを手にした高校生グループがやってきたり、県外から観光に訪れたという建築関係者が館内の見学を申し出たりすることがある。

「博物館だと思ひまして…」という観光客は、総ガラス張り西側玄関から入り、広々とした玄関ホールを通って建物の内部を見学すると、充実

文化を大切にしている町として

・粘り強く追究できる場や時間の保障が不十分

※研究の積みあげや授業から二実技達講習会

毎年、文部省主催による講習会が開催される。県下各都市から一名参加(本都市も参加)し、参加された先生方が講師になって、体育センターで先生方へ伝達講習が行われる。本年、基本の運動、陸上器械運動、バドミントンの種目を同好会員に伝達講習を行っている。

〇夏休み集中研究会では、「これからの体育授業と体育教師のあり方」の講演を受け、分科会毎に模擬指導案づくりの研究を行う。

〇十一月、県学校体育研究会の参加報告を受け、県下の状況を学び合っている。

〇十二月、先輩の先生からの講演会を企画している。

〇一月、スキー実技講習会を行い、会員の親睦を図る。

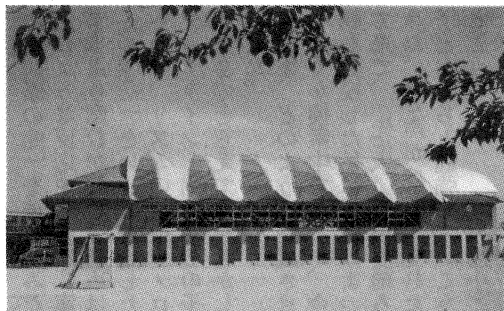
〇まとめ

日々の授業を進めるにあたり、悩み事を気軽に出し合っただけで済ませたい。会員が参加してよかったという同好会にしていきたい。

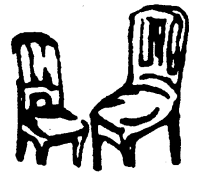
(高山小)

次代を担う、情熱あふれる心豊かな青少年が育つてくれることを期待して、恵まれた環境の中で日々指導にあたっている。

(竹沢代蔵)



火ばら談義



十年後の自分

山崎 史恵

月曜日の朝、教頭先生にこの原稿を書くように言われた。「えっ?」提出日は金曜日。でも私は木曜日から峰の原へ行くことになっている。という事は、水曜日までに書かなくてはならない。

「えーっ。」と職員室で叫んでみたが、もう私に決定しているらしい。ということ。で、この原稿を書かせていただいてる。(好きなことを言えるこの職員室の雰囲気、いつも感謝しています。)

先日、久しぶりに電車に乗った。すると隣の高校生の会話が聞こえてきた。

「ねえ、りんどう祭が終わっちゃった、気が抜けちゃうね。」

「りんどう祭」とは、高校の学校祭のことである。そういえば十年ぐらい前の私も、夏休み前の今頃は、りんどう祭中心の生活だった。夜遅くまで学校に残り、先生に怒られたこともあった。

龍が燃え上がるのを見なが

ら涙が出てきた。最後のフオークダンスは、泥だらけになりながら、声が嘎れそうになるまで大声を出して踊った。十年前の思い出は、私の大切な宝物である。

あの頃は、いい思い出をつくろうと思いつきながら行動していたわけではない。その時々の時を一生懸命過ごしていただけだったと今思う。目標にむかって、がんばってやっていたのだらうと思う。

高校卒業後もたくさんの思い出をつくる事ができた。気が抜けちゃうと言った高校生も、きつと次の目標をみつけてがんばっていきたくらう。十年後に「今」を振り返った時、

「十年前の思い出も、私の大切な宝物。」

と言えるように、毎日を大切に過ごしていきたいと思う。素敵なおばさん”をめぐりて、がんばらう。(豊丘小)

中学校から小学校専科になって

宮崎 和代

まず、子どもたちが自分の気持ちや感情をストレートに言葉や態度で表してくること、気持ち良く歌っている時には自然に体が動いてしまう様子にびっくり。音楽を体で感じる。体で表現するなんて、私の一番苦手とするところでもあったりするの……。

身体表現をどのように取り入れていったらよいか、お

おいに迷っているところでもある。

今年から四年生の教材となった「ジャマイカルンバ」踊りの曲。「とにかく踊ってみよう、手づくりの楽器を手に持って」と誘ってみたが、クラスの三分の一は恥ずかしくて体が動かない。何回か繰り返すうちに、動ける子どもが増えてきたが全員ではなかった。

試みに曲の合い間に「動物

次の時間、クラス担任の先生の支えもあって全員が踊れた。動きはバラバラ。でも、手に持つ楽器の音色も様々だけれど、どの子もリズムに乗って楽しそうに踊りまくる。楽器を持たない子は、ペランダの手すり・机・窓のさん等々周囲にある物を何でも楽器にしてしまう。

踊る楽しさを知った子どもたちは、毎時間踊りたいと言いつつ、「コーヒールンバ」や「マンボNo.5」などの曲に乗って踊り、ペランダを含めデイスコさながらとなる。

感じが、その手紙からうかがい知ることができた。

大学を卒業していつものように送られて来たエアメールを知人に訳してもらい、理解した時、私は大きなショックを受けた。その内容は彼が徴兵に行かねばならないというものだった。水と安全はただ々と育った私たちのすぐ隣の国では同年代の若者がやりたこともできずに徴兵制に従わねばならない現実が苦しんでいる。私の無知と言えばそれまでだが、自分の甘さを思いきり叩かれたようで何とも言えず深いため息がもれた。

人は大きな何かの力によってある時代のある場所に忽然と生み落とされる悲しみを背負っている。私は日本に生まれ

の謝肉祭の曲」を流してみた。どのような反応を示すか?案ずるより産むが易し。初めは「エッ?」という表情をしたものの、リズムの特徴やメロデーライン・強弱等その子なりきのとらえて体を動かしていた。

今後、どのように発展させていくか模索中であるが、今朝も登校した私に、かけよって来て、「先生、今日も踊らうね。」と声かけてくれた子どもたちと勉強していきましょう。(日滝小)

となりの親友

徳竹 秀彦

私が大学の頃所属していた体育会サッカー部は、お隣の韓国にサッカーと定期戦を行うという以前からの伝統があった。日本と韓国のサッカーのレベルを比べると、やはり韓国の方が一枚上手という感じである。その韓国の中の大学でも四本の指に入るとされる亜州大学と試合ができることは大きな意味を持っている。試合会場は、今年我々が訪韓すれば、次の年は亜州大学が来日するというように交互に訪問し合っていた。

私が三年の時、亜州大学が日本に来る番であり、ケガを

受けた。その内容は彼が徴兵に行かねばならないというものだった。水と安全はただ々と育った私たちのすぐ隣の国では同年代の若者がやりたこともできずに徴兵制に従わねばならない現実が苦しんでいる。私の無知と言えばそれまでだが、自分の甘さを思いきり叩かれたようで何とも言えず深いため息がもれた。

人は大きな何かの力によってある時代のある場所に忽然と生み落とされる悲しみを背負っている。私は日本に生まれ

お忙しい中、原稿をお寄せいただき、感謝申し上げます。本年度は、次のメンバーで

編集後記

委員長 太田秀雄(仁礼小)

副委員長 山岸 徹(日滝小)

委員 西原秀明(高甫小)

川上三雄(高山小)

岡沢 茂(須坂小)

佐藤玲子(相森中)

畑中恵美子(東中)

高野喜久夫(常盤中)

久保田啓一(小布施中)

浅井雅子(日野小)

信教 (畑中・西原)